

10 月 18 日は「東アジア保険の日」

～石川協会長がメッセージを発信～

日本損害保険協会(会長：石川 耕治)では、情報・意見交換を通して、海外の損害保険市場との相互理解・交流を推進しており、1962 年に東京で発足したアジア最大の国際保険会議である「東アジア保険会議」(East Asian Insurance Congress : EAIC)にも、生命保険協会と連携して積極的に参画しています。EAIC の定めた「東アジア保険の日」(10 月 18 日)を迎えるにあたり、石川協会長のメッセージ(添付 1)を、国内外に向けて発信します。アジア全体の保険市場が健全な発展を遂げ、社会・経済の発展に貢献していくために、EAIC で行われている活動について、ご理解いただく一助となれば幸いです。

添付資料

1. 「東アジア保険の日」を迎えて(日本損害保険協会 石川 耕治 会長)
2. EAIC の概要



2026年10月18日

「東アジア保険の日」を迎えて

一般社団法人 日本損害保険協会
会長 石川 耕 治

東アジア保険会議（East Asian Insurance Congress: EAIC）が定めた「東アジア保険の日」（10月18日）が、本年度で20周年の大きな節目を迎えるにあたり、日本損害保険協会を代表して心よりお祝い申し上げます。

はじめに、昨今、世界各地で発生している大規模な自然災害により被害に遭われた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

日本におきましても、令和8年熊本地震および令和8年8月千葉豪雨をはじめ、台風や局地的な大雨等により、全国各地で甚大な自然災害が発生しております。お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。発災以降、被災地では生活再建に向けた懸命な復旧・復興活動が続いております。損害保険業界といたしましても、被災された皆さまが一日も早く平穏な日常生活を取り戻せるよう、総力を挙げ、引き続き迅速な保険金のお支払いに取り組んでまいります。



EAICは、東アジア保険市場における国際協力の促進と発展を目的に、1962年10月18日に発足しました。わずか140名の参加者から始まった本会議は、近年の大会では参加者が1,000名規模に達するなど、アジア最大級の保険会議へと目覚ましい発展を遂げています。

本年9月には、一般社団法人生命保険協会との共同により、EAIC発祥の地である東京で、実に24年ぶりとなる「第31回東京大会」を開催いたしました。国や地域の垣根を越えて数多くの皆さまをお迎えし、大盛況のうちに幕を閉じることができました。この大会を通じ、激動する世界において私たちが直面する共通課題に対し、率直な意見交換と知見の共有が行われたことは、東アジア保険業界のさらなる発展に向けた確かな一歩になったと確信しております。

東京大会を通じて業界の連携が深まる中で迎えた本年の「東アジア保険の日」は、社会における保険の役割を再確認し、相互連携をさらに強固にする重要な機会です。20年の歩みを経た現在、自然災害の激甚化・頻発化にとどまらず、地政学的緊張の波及、そして急速なデジタル化に伴うサイバー攻撃の脅威など、私たちを取り巻くリスク環境はかつてないスピードで変化し、不確実性を増しています。

このような時代において、損害保険は有事の際の経済的補償という従来の枠を超え、平時における「防災・減災」や早期復旧の支援等を通じて、社会と経済のレジリエンスを向上させる「不可欠な社会インフラ」として、これまで以上に重要な役割を求められています。国や地域の枠を越えて連携を深め「安心・安全で持続可能な社会」を共に創り上げていくことこそが、私たちの普遍の使命です。

当協会におきましても、長年にわたる連帯と協力の理念を体現する具体的な国際貢献として、1972年より、国際的保険技術協力・交流プログラム「日本国際保険学校（ISJ）」を毎年開催しており

ます。これまでに約 2,400 名にのぼる卒業生を輩出しており、単なる教育研修にとどまらず、国境を越えた参加者のネットワークを育む場として高い評価をいただいております。

当協会は、この記念すべき「東アジア保険の日」20 周年の節目を機に、社会における保険の重要性のさらなる普及と、相互連携の深化に向けて、引き続き以下の取組みを推進してまいります。

- ・ ホームページおよび保険業界紙を通じた積極的な広報・啓発活動
- ・ ISJ 卒業生のネットワークを活用した、「東アジア保険の日」の祝賀を通じた各国・地域における保険の重要性の普及および次回 EAIC 大会への参加呼びかけ

結びに、この「東アジア保険の日」が、すべての皆さまにとって、保険の社会的価値を再認識するとともに、より良い未来に向けた協働への決意を新たにする契機となることを願っております。東アジア保険市場の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

以上

EAICとは？

- East Asian Insurance Congressの略で、和文では「東アジア保険会議」といいます。
- EAICは、1962年に東京で発足したアジア最大の生損保合同の国際保険会議で、アジアの保険市場における「国際協力の促進と発展」を目的としております。
- 第1回東京大会の海外からの参加者はわずか20数名程度でしたが、現在では、参加者が600名を超える国際会議に発展しております。各市場の抱える共通の課題解決のための論議の場として、重要な役割を果たしています。
- 日本損害保険協会では、EAIC理事会メンバーへの就任や、大会へのスピーカー派遣等を通して、EAICに積極的に参画し、アジアの各保険市場との情報・意見交換、交流促進を図っております。

EAICメンバー地域

正会員(12地域)

バンドルスリブガワン、バンコク、香港、ジャカルタ、
クアラルンプール、マカオ、マニラ、プノンペン、
ソウル、シンガポール、台北、東京

準会員(7地域)

オーストラリア、バングラデッシュ、ブータン、デンマーク、
フィジー、インド、パキスタン、パプアニューギニア、
スリランカ、イギリス、アメリカ

EAIC会員数(2024年5月31日)

	法人会員	個人会員
正会員	926社	560名
準会員	32社	73名
合 計	958社	633名



これまでのEAIC大会主催地



開催年	開催地	開催年	開催地
1962年(第 1 回)	東京	1996年(第 18 回)	シンガポール
1964年(第 2 回)	マニラ	1998年(第 19 回)	マカオ
1966年(第 3 回)	バンコク	2000年(第 20 回)	マニラ
1968年(第 4 回)	ソウル	2002年(第 21 回)	東京
1970年(第 5 回)	台北	2004年(第 22 回)	バンコク
1972年(第 6 回)	クアラルンプール	2006年(第 23 回)	バンドルスリブガワン
1974年(第 7 回)	ジャカルタ	2008年(第 24 回)	香港
1976年(第 8 回)	ソウル	2010年(第 25 回)	ジャカルタ
1978年(第 9 回)	シンガポール	2012年(第 26 回)	クアラルンプール
1980年(第 10 回)	マニラ	2014年(第 27 回)	台北
1982年(第 11 回)	東京	2016年(第 28 回)	マカオ
1984年(第 12 回)	バンコク	2018年(第 29 回)	マニラ
1986年(第 13 回)	香港	2020年	ソウル(新型コロナにより中止)
1988年(第 14 回)	クアラルンプール	2024年(第 30 回)	香港
1990年(第 15 回)	台北	2026年(第 31 回)	東京
1992年(第 16 回)	ジャカルタ	2028年(第 32 回)	バンコク
1994年(第 17 回)	ソウル		

* EAICは、2年毎に開催されます。開催都市は、メンバー地域のローテーションで決まります。

* 東京では、これまで1962年(第1回)、1982年(第11回)、2002年(第21回)、2026年(第31回)の4回、大会を開催しています。

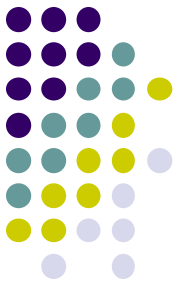
最近のEAIC東京代表理事



任 期	大会主催地	東京代表理事（敬称略）	
1986年－1988年	クアラルンプール	高橋 壽常	日本生命副社長
1988年－1990年	台北	石川 武	大正海上会長
1990年－1992年	ジャカルタ	西尾 信一	第一生命会長
1992年－1994年	ソウル	有吉 孝一	安田火災社長
1994年－1996年	シンガポール	若原 泰之	朝日生命会長
1996年－1998年	マカオ	小野田 隆	住友海上会長
1998年－2000年	マニラ	金子 亮太郎	明治生命社長
2000年－2002年	東京	樋口 公啓	東京海上会長
2002年－2004年	バンコク	吉野 泰生	住友生命会長
2004年－2006年	バンドルスリプガワン	松澤 建	日本興亜損保社長
2006年－2008年	香港	石橋 三洋	日本生命副会長
2008年－2010年	ジャカルタ	佐藤 正敏	損保ジャパン会長
2010年－2012年	クアラルンプール	斎藤 勝利	第一生命会長
2012年－2014年	台北	鈴木 久仁	あいおいニッセイ同和社長
2014年－2016年	マカオ	根岸 秋男	明治安田生命社長
2016年－2018年	マニラ	北沢 利文	東京海上日動社長
2018年－2022年	ソウル	橋本 雅博	住友生命社社長
		高田 幸徳	（同上。社長就任により交代）
2022年－2024年	香港	船 曳 真 一 郎	三井住友海上社長
2024年－2026年	東京	清水 博	日本生命会長（就任時は社長）
2026年－2028年	バンコク	高橋 幸嗣	SOMPOホールディングス グループCRO・常務執行役員

- ※1. EAICの東京代表理事は、1986年以降、生損保両業界から交互に選出することになっています。
 2. 東京代表理事の役職名は当時のものです。

最近のEAIC大会テーマ



- **第21回東京大会 (2002年)**
“Challenges and Opportunities for Insurance in the Changing World of Financial Services”
(金融サービス変革期における保険業界の挑戦と可能性)
- **第22回バンコック大会 (2004年)**
“Asian Insurers in the New Financial Environment”
(新たな金融環境下におけるアジアの保険者)
- **第23回バンダルスリブガワン大会 (2006年)**
“East Asian Insurance at the Crossroads of Growth and Profitability”
(成長と収益性の岐路に立つ東アジア保険業界)
- **第24回香港大会 (2008年)**
“Staying Ahead? – East Asian Insurers in the Era of Global Challenges ”
(世界的な経済危機の中で、東アジアの保険会社は、一歩踏み出すことができるのか)
- **第25回パリ大会 (2010年)**
“Going Back to Basics with a Dynamic New Mindset in Insurance ”
(新たな革新的視点を持って基本に立ち返る)
- **第26回クアラルンプール大会 (2012年)**
“Transforming the East Asian Insurers – Time for Action Now”
(東アジア保険業界の転換 – 今、行動を起こすとき)
- **第27回台北大会 (2014年)**
“Insurance at the Cross Roads – Coping wit the Change”
(岐路に立つ保険 – 変化への対応)
- **第28回マカオ大会 (2016年)**
“The Future of Insurance – Customer Centricity”
(保険の未来 – 顧客中心主義)
- **第29回マニラ大会 (2018年)**
“Managing Disruptions, Driving Change”
(創造的破壊への対処、変化への推進)
- **第30回香港大会 (2024年)**
“Back to the Future – Empowering East Asian Insurers for 2044 and Beyond
Building on the Foundation and Exploring the Future”
(未来への回帰 – 2044年以降に向けて東アジアの保険会社を強化する基礎を築き、未来を探る)
- **第31回東京大会 (2026年)**
“Back to the Origin, A Bridge to the Future” ～Asia Reunites at EAIC Tokyo～
(原点に立ち返り、未来への懸け橋に』 ～アジア、EAIC東京で再結集～)